



写真中央が、新たに完成した学生寮（フロンティアタワーズ）です。

ご卒業を心より
お祝い申し上げます

平成18年3月25日
学校法人 駿河台大学

- 理事長 山崎春之
理事 竹下守夫
吉田邦久
河上和雄
山崎善久
森 茜
山畔清明
桐木隆一
松本 香
樋口一夫

駿河台大学 同窓会報
第10号
発行
駿河台大学同窓会事務局
〒357 8555
埼玉県飯能市阿須698
☎(042)972 1101
ホームページ
http://www.sunagadai.ac.jp/
/dousou/index.html

希望に満ちた門出を祝福 平成17年度卒業式報告

同窓会員として新たに仲間入りする彼らを温かく迎え、今後さらに同窓会が発展することを祈ります。



平成18年3月25日（土）14時から、平成17年度卒業式が本学体育館にて挙行されました。
今年度の卒業生は、法学部345名、経済学部338名、文化情報学部286名、現代文化学部148名、研究科43名、合計1160名。卒業生は、スーツや袴姿で式に臨み、厳肅ながらも華やかな式典となりました。

卒業式では、総長挨拶、学長式辞に続き、来賓に登山家の田部井淳子氏をお迎えし、祝辞をいただきました。そして、現代文化学部比較文化学科の平野桂子さんが、卒業生を代表して、堂々と答辞を述べました。
卒業式終了後、各教室に移動して、卒業生全員に「学位記・卒業証書」が授与されました。17時30分からは、飯能プリンスホテルにて、コメントメントパーティー（卒業祝賀・謝恩パーティー）が開催されました。恩師への感謝の気持ちや胸に、学生生活を振り返り、晴れやかな姿の卒業生たちで満ちました。

- 平成17年度答辞総代・各賞受賞者一覧**
- 答辞**
比較文化学科
平野桂子（私立駒場学園高校出身）
総代
法務研究科
佐藤政敏
経済学研究科
LIUDAN（留学生・中国）
文化情報学研究科
WANG CHANG WEI（留学生・中国）
法律学科
小橋翔太（都立東大和高校出身）
経済学科
高山剛寛（埼玉県立人間向陽高校出身）
経営情報学科
西田直史（埼玉県立所沢中央高校出身）
文化情報学科
湯浅美奈都立武蔵村山東現・上水（高校出身）
知識情報学科
北田恵美（私立狭山ヶ丘高校出身）
比較文化学科
菊池まこと（私立盛岡スコーレ高校出身）
優秀賞
法律学科
吉田貴一（私立静岡北高校出身）
経済学科
田中絃子（埼玉県立大宮中央高校出身）
経営情報学科
WANG YUHUA I（留学生・中国）
文化情報学科
KIM HYE ROUNG（留学生・韓国）
知識情報学科
佐藤絵理（新潟県立新発田商業高校出身）
比較文化学科
LEE SUK YOUNG（留学生・韓国）
菩提樹賞
法律学科
飯島 優（長野県野沢南高校出身）
市川和弘（群馬県立高崎東高校出身）
金田大輔（福島県立坂下高校出身）
小林 豊（私立大成高校出身）
篠原裕司（私立豊島学院高校出身）
田川啓介（埼玉県立所沢中央高校出身）
中井智史（私立聖パウロ学園高校出身）
原島 淳（埼玉県立秩父高校出身）
柳川 彩（埼玉県立大宮光陵高校出身）
和歌山法子（大学入学資格検定合格）
ZHANG YANYAN（留学生・中国）
経済学科
内田康夫（埼玉県立飯能南高校出身）
杉本正英（都立八王子北高校出身）
原井健幸（埼玉県立狭山経済高校出身）
高井博司（私立明法高校出身）
経営情報学科
片平和志（私立昭和第一学園高校出身）
長井慎吾（埼玉県立人間高校出身）
DONG BIAO（留学生・中国）
HUNG LI JUAN（留学生・中国）
文化情報学科
町田貴比古（都立北園高校出身）
太田麻裕（新潟県立新発田商業高校出身）
小宮山千景（山梨県立峡北・現・北杜高校出身）
知識情報学科
高山亜紀子（栃木県立宇都宮商業高校出身）
飯田宏子（埼玉県立杉戸高校出身）
小河 恵（埼玉県立秩父東現・秩父農工科学）（高校出身）
比較文化学科
東さやか（都立小平南高校出身）
佐藤朋美（埼玉県立岩槻高校出身）
鈴木夏樹（私立京華高校出身）
特別賞（課外活動において、優秀な成果を取った学生に贈られる賞です）
法律学科
嶋田貴文（私立本庄第一高校出身）
西川よし美（静岡県立沼津商業高校出身）
経済学科
小林正佳（神奈川県立山北高校出身）
千葉洋平（千葉県立鎌子商業高校出身）
中村亮太（私立北海高校出身）
森本麻美（高知県立安芸高校出身）
経営情報学科
新井ゆかり（私立富士見高校出身）
DONG BIAO（留学生・中国）
高原 健（国立筑波大学附属盲学校出身）
文化情報学科
井上 篤（群馬県立高崎工業高校出身）
佐々木文子（都立福生高校出身）
谷口共徳（神奈川県立山北高校出身）
戸上里紗（栃木県立大田原女子高校出身）
我妻順子（栃木県立今市高校出身）
知識情報学科
坂上 智（私立敬和学園高校出身）
宮岡 努（都立武蔵村山高校出身）
吉田綾香（私立本庄第一高校出身）
比較文化学科
安藤由実（埼玉県立大宮武蔵野高校出身）
笹倉宏絵（茨城県立土浦湖北高校出身）
野々宮賢治（徳島県立那賀高校出身）
米山智子（私立東京成徳大学高校出身）
入関プロジェクト貢献賞
経済学科
高橋尚輝（福島県立白河旭高校出身）
都築 満（私立豊島学院高校出身）
柳橋龍雄（埼玉県立狭山高校出身）
経営情報学科
岡田みさこ（栃木県立足利商業高校出身）
今野由香里（埼玉県立川越西高校出身）
文化情報学科
山本和孝（都立五日市高校出身）
知識情報学科
江田恭子（埼玉県立狭山経済高校出身）
比較文化学科
齋藤育恵（埼玉県立飯能高校出身）

元本学理事・評議員

山下 薫 名誉教授 ご逝去

ご冥福をお祈りいたします



山下薫先生のご逝去を悼む

学長 竹下守夫

去る10月17日、本学名誉教授・理事山下薫先生が逝去なされた。数年前に患われた胆嚢の癌が悪化し、肝不全になられたことによるものであった。享年76歳であられた。

山下先生は、平成6年4月、本学法学部教授に着任され、以来、平成15年3月に定年でご退職になられるまで、裁判官として蓄積された幅広い専門的学識と豊かな実務経験を生かされて裁判法、行政救済法、社会保障法等の講義及び専門演習を担当され、熱心に学生の教育に当たられた。とりわけ司法試験はじめ国家試験の受験を志す、法律相談部の学生の指導に取り組み、平常の演習のほか答案練習会や合宿を通じて、学生一人ひとりに暖かい教育的眼差しを注いで下さった。また先生は、本学に着任された直後から、飯能市民のための法律相談を企画され、これに学生をアシスタントとして参加させることによって、地域への貢献と学生に対する法律学の実践的教育を実行してこられた。

わたくしは、山下先生より2年後れて本学に着任したが、着任後、お互いに司法研修所で同期であることが分かったこともあって、当初より先生から親しく厚誼を賜った。大学運営の面で、とくに忘れることができないのは、本学法科大学院の設立準備に際し、元東京高裁判事総括判事の脈脈を活かして、専任教員人事につき、先生から絶大な協力を賜ったことである。山下先生無くしては、駿河台大学法科大学院の今日にはなかつたといつて、決して過言ではない。

山下先生との9年余に及ぶお付き合いを通じて、わたくしは、次第に先生のお人柄、その生き方に深い感銘を受けるようになった。最初のご発病後も、常に明るく前向きに生きられた。名古屋高裁時代に知り合われた看護婦の皆さんの希望に添えて、介護を目的とするNPO法人を立ち上げ、毎月1度名古屋に指導に行つておられた。社会的に弱い立場の人々への先生の温かい思いやりと、この社会に正義を実現することへの強いご意志によるものであったと思う。私心とか個人的榮譽への関心とは、全く無縁な生き方であった。

山下先生は、東京大学法学部の学生の頃から、当時の東京大学総長矢内原忠雄先生の主宰する聖書研究会に所属するキリスト教徒であられた。今回のご葬儀の前夜式告別式で、古くからの友人、信仰を同じくする知人の方々のお話を伺って、先生が生時代から、裁判官、教育者の時期を通じて、一貫して、わたくしの想像を遙かに超えた熱心な信者であられたことを知った。山下先生のご葬儀は、このような敬虔で、信念に満ちた先生のご生涯に相応しく、わたくし達会葬者一同の心をも洗い清めて下さるようなものであった。

山下先生が本学のために遺された多くのご功績に感謝申し上げるとともに、先生のご冥福を心からお祈りしたい。

退任教授からのメッセージ

駿河台大学への感謝

文化情報学部教授 戸田光昭



平成17年12月に70歳を迎え、この3月末で定年退職することになった。文化情報学部創設以来、これまで勤務できたのも、学内教職員の皆様ならびに卒業生も含めた学生諸君のおかげである。深く感謝申し上げたい。そこで、これまでの12年間の駿河台大学における教員生活を反省してまとめ、感謝のしるしとしたい。

(一) 学部学生の基礎教育

文化情報学部ではオリエンテーション科目として、当初、資料検索法、論文執筆法、研究調査法、プレゼンテーション法、プレゼミナールを置いていた(06年度からはゼミナールだけが残り)。学部の理想を生かしたカリキュラムを再構築し、さらに全学共通科目とすれば、副専攻科目などよりは、ずっと大学の特色になると考える。

(二) 事務局との協働

大学は教員だけで構成されているのではない。教員は卒業生を除けば、根無し草に近く、大学間をさまよっていて、責任をとらない。事務局を中心とした大学運営が重要である。

(三) キャンパス滞在時間

学生寮も完成し、施設はますます充実してきた。しかし、教員の滞在時間が増加したとは思えない。学生をキャンパス内での学習・教育・研究に集中させるには、教員がいなければならぬ。メディアセンターを始めとする学内施設の活用を教員が率先して、模範を示す必要がある。

(四) 教育のための研究

大学、特に私立大学は学生がいなければ成り立たない。学生向けの教育研究が教員の役割であり、講義や演習の評価を教員相互に行つことも重要になる。

(五) 大学の非常識

大学は世間の非常識が横行するところである。研究者を養成することを目的としていた時代の名残である。時間を守らない、言われなければ何もしない、朝は遅い、などはその一部である。これを就職活動の反面教師とすれば成功する。

Retire—not from something, but to something. 文化情報学部教授 柴山森二郎



昨年の9月米国のシアトルで、家内と長年の友人たちのパーティーによられた。ほとんどがすでに定年後の生活を楽しんでいる人たちで、近く私たちも仲間に入ることを知って集まってくれた。都合がつかなくて電話をくれた人もいて、感謝し、つくづく英語を学んでよかったと思った。

言葉は人と人の中で使われるので、言葉の学習には人との出会いが不可欠である。出会いにも良い悪いはある。しかし外国語を勉強し、書物による間接的な出会いも含め、国や文化をこえて良い出会いを持つことは大きな喜びはない。

駿河台大学には、非常勤の2年間も入ると、この3月で14年間勤めたことになる。大学当局をはじめ教職員の皆様に一方ならぬ世話になったこと、またここでも、幾多の有益なるいは心温まる出会いを経験させていただいたことを深く感謝している。とくに学生諸君からは多くのことを学んだ。その一つは成功体験の力である。

秋学期に、夕間の迫るなかで、再履修の学生諸君と苦勞して「アラビアンナイト物語」を読み、その理解を確かめ合ったときの達成感、教師の私にも大きな励みになった。

また本学の海外語学研修では、ポストン、カリフォルニア、メルボルンと3回学生に同行したが、その折にも、学生が試行錯誤を繰り返しながら、成功体験を積み重ねて成長してゆく姿を見ることができた。4月からの生活はまだ見当がつかない。冒頭に述べたパーティーで、ある人から「Retirement」という小冊子を戴いたが、その中に表題のような文字を見つけて共感した。引退といふことではなく、前向きに新しい生活を迎えたいと思う。

本学の発展、教職員の皆様の活躍、学生諸君の飛躍を祈念して筆をおく。

退任教授一覧

- () 内は主な担当科目
〈法学部〉
阪埜 光男 教授(商法Ⅱ、商法Ⅲ)
〈文化情報学部〉
岸田 和明 教授(情報検索論)
柴山 森二郎 教授(英語)
戸田 光昭 教授(企業記録論)

司法試験合格

おめでとうございませす

2005年度司法試験合格者

松原賢宏さんに訊く!!

昨年11月9日(木)に本年度の司法試験合格者が法務省から発表され、本学法学部卒業生の松原賢宏さん(94年度法学部卒・都立永福(現・杉並総合)高校出身)が見事合格を果たしました。本学からの司法試験合格は昨年引き続く快挙で、松原さんが7人目。ここに松原さんの横顔と合格までの道程を紹介します。

●大学時代を振り返って

在学中は、専らアルバイトとサークル活動に精を出し、勉強した記憶といえば、オープンカレッジ(現キャリアアカレッシ)で宅建講座を受講し、在学中に資格取得した位です。ゼミは、織田博子先生(現本学法学大学院教授)の民法ゼミと、柿崎榮治先生(現駿台法律経済専門学校校長)の商法ゼミに所属していたものの、先生の質問を回避するため、先生の死角に入るように他の学生の陰に隠れていました。

●受験勉強を始めたきっかけ

父が弁護士であることもあって、幼少時からそれとなく志は持っていました。真剣に考え始めたのは、大学3年生の秋に就職を意識してからでした。それまで司法試験のための準備を何もしてこなかったため、受験に反対する声も聞かれましたが、いつか見返してやろうと気持ちを高め、勉強に本腰を入れました。

●合格までの経緯

予備校で勉強しながら受験し始めたのは卒業後のことでしたが、短答式試験に3年連続で不合格。「これでダメなら」の覚悟で臨んだ4年目によく短答式をクリア。その後5年連続短答式クリアも、論文試験で不合格。そして今回、6年連続短答式クリアの後、ようやく論文・口述試験を突破することができました。卒業後10年かかりました。

●合格の秘訣

司法試験受験生は、皆普通に1日12時間以上勉強していますが、急にできることではありません。私は、週1日勉強から離れる日を設け、思いっきり遊んで気分転換し、モチベーションを維持していました。しかし一番の秘訣は、切磋琢磨できる

勉強仲間を作ったことでしょうか。答練で仲間と競い合い、予備校の成績優秀者に名前を連ねていくことにより、自分の力を客観的に知ることができましたし、先に合格した仲間の答えは、最高の教材にもなりました。また、論文対策に集中するために、短答式を毎年クリアし続けることも大専。口述試験については、弁護士である父とのコミュニケーションが、そのまま役立ったと思います。

●現在の心境・後輩へのアドバイス

合格は信じられぬほど嬉しいのですが、一方で「やっとー!」の思いもあります。今は、とにかくホッとしています。

次年度からは、新司法試験がスタートします。学生諸君が法曹を目指す場合は、まず法科大学院への進学を考えることになるかと思いますが、どうか迷ったら、まず第一歩を踏み出してください。尻込みしてはいけません。先に進みませんか。



陸上競技部

箱根駅伝予選会出場

〜歴史に残る第一歩〜

第82回東京箱根間往復大学駅伝競走大会(2006年1月2・3日開催)の予選会が10月22日(土)、東京都立川市の昭和記念公園で39校が参加して行われ、本学陸上競技部は初出場27位と健闘しました。

今年度より、



陸上競技部は、木隆二氏を監督に迎えました。邑木監督の専門種目は400m。自身は箱根駅伝とは無縁でしたが、世界選手権にも出場した一流選手ならではの感性と研究熱心さ、強い指導力で、就任1年目でチームを予選会出場に導きました。

7月に予選会出場が決定して以来、長距離プロジェクトは法政大学との合同や大学単独で4度の合宿を重ねてきました。法政大学との合同合宿では、本大会常連校との地力の差をまざまざと見せつけられ、練習メニューについていけないなど辛酸を味わうこともありましたが、個々の選手が着実に力をつけることもチームとしての結束力を育んで予選会の日を迎えました。

初出場ということで、当日は最後尾近くからのスタート。エースの河村君をはじめ、必ずしも全員が万全の調子というわけではありませんでしたが、それぞれの選手が持味を発揮し、制限時間の1時間30分以内に全員がゴールしました。箱根にはまだまだ遠い結果でしたが、初めてついた順位。駿河台大学陸上競技部にとって記念すべき一歩となりました。

●最終チーム成績 11時間31分15秒 27位

フロンティアアタワーズ

(新学生寮)完成!!

今年1月、本学飯能キャンパスに新学生寮「フロンティアアタワーズ」が完成しました。フロンティアアタワーズは、本学に在籍する学生を対象とした男子寮と女子寮。学生に良好な住環境を提供することによって、より充実した学生生活を送れるよう、大学が直接管理運営にあたります。

建物は、白亜の10階建てツインタワーで、男女合わせて294室の居住スペースを有しています。全館冷暖房完備で、最新のセキュリティシステムを備えるだけでなく、全室でインターネットが24時間無料で利用できるなど、安全で快適な生活と学習に必要な十分な設備を配しています。居室は全個室で、16㎡のワルルーム。また、1階に日用品を販売する売店、各階にはランドリー室も用意され、洗濯機・乾燥機を無料で利用することができ、多目的ルームとして、セミナールームやカラオケルームも用意されるので、寮生の交流の場として大いに活用されるでしょう。

各建物の出入口、エレベーターホール、各部屋の入り口はカードキーによってセキュリティが守られ、1階フロントには管理人が常駐し、生活をサポートします。管理栄養士が作る「マザーフード」と呼ばれるメニューにより、食事を提供するレストランもあります。



平成18年度同窓会総会開催のご案内

サンシャインシティプリンスホテルにて

同窓会事務局では、同窓生の皆様が集う場として、年に2回懇親会等を企画しております。

平成18年度は、5月に同窓会総会を、10月末(駿輝祭時)にホームカミングデーを企画しております。今年度の同窓会総会は、5月13日(土)、サンシャインシティプリンスホテル(豊島区東池袋)にて開催いたします。

当日、総会では平成17年度の決算報告、平成18年度予算及び事業計画等を審議し、総会終了後に懇親会を予定しております。懇親会では、在学生によるサークル発表等も企画しておりますので、ご期待ください。今年度の総会・懇親会も、一人でも多くの会員の皆様にご出席いただければ幸いです。

開催日: 平成18年5月13日(土)

時間: 総会 15:00~
懇親会 16:00~

会場: サンシャインシティプリンスホテル
 総会 2F 飛魚
 懇親会 2F 琴・乙女
 東京都豊島区東池袋3-1-5
 TEL 03-3988-1111

会費: 懇親会1人1,000円(総会のみ出席の方は無料です)



アクセス

地下鉄有楽町線東池袋駅2番口から徒歩3分
 都電荒川線東池袋四丁目駅から徒歩6分
 西武池袋線・JR線・地下鉄・東武東上線池袋駅東口から徒歩8分
 (お車の場合)首都高速道路5号線東池袋ランプと直結



平成17年度同窓会総会懇親会の様子

ホームカミングデーは、10月下旬の駿輝祭時に、飯能キャンパスにて開催する予定です。同窓会主催の講演会や会員の皆様をご招待して懇親会を行う予定です。皆様お誘い合わせの上、ふるってご参加ください。

入間プロジェクト報告②

現代G 学生いきいき、大学もいきいき

実行委員会委員長・経済学研究科長 樋田英三

駿河台大学同窓会報第9号(昨年10月1日発行)でもご報告しました「学生参加による(入間)活性化プロジェクト」(入間プロジェクトと略す)について、前号ではその目的や特徴についてご紹介しました。今回は引き続き、具体的な取り組みや内容についてご紹介いたします。

入間プロジェクトの内容

- (1) 駿大ふれあいハウス(平成16年12月18日オープン)での主な活動
プロジェクトの活動の中心は、入間市の中心地にある複合映画館(ユナイテッド入間)の入っているエポットの2階にオープンした駿大ふれあいハウスで行われています。
- (2) パソコンクリニック パソコンの使い方が分からない、トラブルが起こったという市民の相談に学生が乗っています。
- (3) まちおこしイベントの企画・運営 3月の「春のさとやま探検隊」、4月の「おとつろう祭り」などの企画・運営に、学生が市民と一緒に参加しています。
- (4) 子どもパソコンクラブ 小学生にパソコンを教える活動をしています。教え方、教材、運営など、学生がすべて自主的に行っています。
- (5) ふれあい文庫 学生・市民が気軽に楽しめる書籍を設置しています。
- (6) 地域IT化サポート
- (7) 超初級パソコン講座 まったくの初心者に学生が教えています。テキストも学生が作ります。
- (8) 中級IT講座 教員が教え、学生がアシスタントをつとめています。
- (9) 小学校パソコンアシスタント 学生が豊岡小学校のパソコン授業のサポートをしています。



(3) 地域インターンシップ
入間市を中心とした地域企業、自治体でのインターンシップに、平成17年度には54名の学生が参加しました。

(4) 学生によるリサーチ
① 企業インタビュー 入間市商工会と協力して行っています。
② 商品・サービスの企画とマーケティング
「脱臭液の市場化」プロジェクトに参加して、製品が市場に出る前の段階を体験しました。

(5) その他
① 子どもボランティア 託児施設や保育園で育児ボランティアをしています。
② 映像番組をつくる 児童センターのプラネタリウムを舞台に、CGを使って子どもと一緒に映像番組を作成しました。

③ FMチャッピー(茶館) オンエア 毎月第四土曜日正午12時15分に「入間プロジェクト」の活動を市民に紹介する番組を、学生が企画・放送しています。

④ 学生によるまちづくりフォーラム 学生が中心となり、活動の報告会とシンポジウムを開催し、市民と一緒にまちづくりを考えています。

⑤ 通学合宿サポーター 青少年活動センターでの小学生の通学合宿のサポートを行っています。

⑥ 豊岡ブチ大学 学生だけでなく、教員もまちづくりに参加するため、ハウスでミニ講座を行っています。

学生いきいき
私たち教員の口からも、「キャンパスの中ででないいきいきした顔を見たことがない」「結構自分たちでしっかりやっている」と、学生を見直す言葉が異口同音に出てきました。今回のプロジェクトを通して、学生が持っているエネルギー、潜在的能力を再発見すると同時に、今までの教員はどのような学生の力を十分に引き出すことを行っていたのか、大いに反省を強いられている次第であります。教育とは教える者、教えられる者がお互いを信頼するところから始まります。入間プロジェクトはその教育の原点を私たちに気づかせてくれました。

同窓会事務局からのお知らせ
同窓会のホームページをリニューアルしました。
<http://www.surugadai.ac.jp/dousou/index.html>